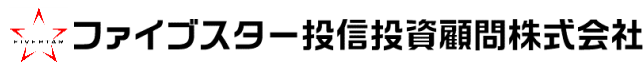


受益者の皆様へ



アジア・エクイティ・インカム・ツインα・ファンド(毎月分配型)の 基準価額下落について

平素は格別のご愛顧を賜り、厚く御礼申し上げます。
表題ファンドの基準価額が、2020年1月31日に前営業日比で5%以上の下落となりました。
つきましては、以下にファンドの状況と基準価額の変動要因をご報告します。

(1) ファンドの基準価額と騰落率

ファンド名	1月30日 基準価額	1月31日 基準価額	前営業日比 騰落幅	前営業日比 騰落率
アジア・エクイティ・インカム・ ツインα・ファンド(毎月分配型)	1,801 円	1,708円	▲93円	▲5.16%

(2) 基準価額の変動要因について

本ファンドは、主要投資対象(基本投資配分比率 95%)とする「クレディ・スイス・ユニバーサル・トラスト(ケイマン)Ⅱ-アジア・エクイティ・インカムプラス・ストラテジー・ファンド(適格機関投資家限定)-ツイン・アルファ・クラス」(以下、ケイマン籍円建外国投資信託といいます。)への投資を通じて、日本を除くアジア諸国・地域(主として、香港、韓国、台湾、タイ、インドネシア、マレーシア、シンガポールおよびインド等)の株式に実質的に投資を行います。

従いまして、本ファンドの基準価額は、ケイマン籍円建外国投資信託を通じて、上記の日本を除くアジア諸国・地域の株式の値動きの影響を大きく受けます。

(3) 市況概況

本ファンドについては、投資対象の各国金融市場におけるリターンを1日遅れで反映させる仕組みとなっております。そして、台湾金融市場が中国春節を背景に1月23日から29日まで休場となったことから、この期間は、当ファンドの基準価額には、台湾市場を含む全市場における価格変動が反映されておられません。30日の台湾市場再開に合わせて、23日から30日の間の各市場における価格変動の影響が、31日の本ファンドの基準価額に一元的に反映される形になっております。

上記期間におけるMSCI Asia ex Japan index(円ベース)は▲6.8%の大幅下落となり、主要投資対象となるアジア各国でも、インドSENSEX指数が▲2.4%、香港ハンセン指数が▲7.7%、韓国KOSPI指数が▲8.5%、台湾加権指数が▲8.1%、タイSET指数が▲6.7%と軒並み大幅下落となりました。中国の武漢市で発生した新型コロナウイルスによる肺炎の感染拡大により、世界的に工場の稼働停止・海外渡航の抑制などの動きが日毎に強まっており、それらが世界経済に及ぼすネガティブ影響への懸念が高まっております。これが、今般の各国金融市場の下落と、それを反映した本ファンドの基準価額下落の主因となっております。

今般の新型コロナウイルスに関する今後の見通しについては、2003年に発生したSARS(重症急性呼吸器症候群)が前例として参考にはなりますが、当時との比較で中国経済の存在力や、中国と他国との間の人の往來の水準が大きく異なることから、予断は許されず事態を軽視することは禁物と思われまます。当面は、世界的な経済活動停滞への懸念から、各国の金融市場が弱含む展開も想定できます。そのことを十分に踏まえた上で、ファンドの基本的運用方針に則り、機動的な運用を心掛けて参ります。

以上

※本資料内の表示桁数未満は四捨五入して表示しております。